

第2期
川崎市ごみ減量推進市民会議
活動報告書

平成22年7月

川崎市ごみ減量推進市民会議

第2期 川崎市ごみ減量推進市民会議 活動報告書

1	はじめに	1
2	川崎市ごみ減量推進市民会議（第2期）について	2
	（1）川崎市ごみ減量推進市民会議とは	2
	（2）市民会議のメンバー	2
	（3）会議の開催状況	5
	（4）分科会の活動	6
3	分科会活動報告	7
	（1）第1分科会「生ごみダイエット」	7
	1）活動のねらい	7
	2）活動の内容	8
	3）活動の成果	10
	（2）第2分科会「普及広報チラシの研究」	13
	1）活動のねらい	13
	2）活動の内容	13
	3）活動の成果	14
	（3）第3分科会「レジ袋削減に向けた取り組み」	19
	1）活動のねらい	19
	2）活動の内容	19
	3）活動の成果	22
	（4）第4分科会「若者へ伝える3R」	24
	1）活動のねらい	24
	2）活動の内容	25
	3）活動の成果	28
	（5）市民会議活動報告会	30
	1）活動のねらい	30
	2）活動の内容	30
	3）活動の成果	30
4	今後の取り組みについて	32
	（1）川崎市政への提案	32
	（2）市民会議をより有意義なものとするための提案	33
	（3）最後に	35

1 はじめに

私たちの生活は、便利な機能や様々なデザインで彩られた製品に囲まれ、また、豊富な食べ物がいつでも店舗で手に入るなど、ますます豊かなものになってきました。

しかし、快適な生活を追及するあまり、地球温暖化や資源の枯渇、生活環境の悪化など、地球環境に対して大きな影響を及ぼす問題が発生しています。私たちの家庭から排出される廃棄物の問題も、そのような切実な課題の一つです。

このような状況の中で、3R（リデュース〔発生抑制〕・リユース〔再使用〕・リサイクル〔再生利用〕）を基本とした循環型社会への転換が求められています。川崎市では、平成17年4月に「地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指して」を基本理念に「川崎市一般廃棄物処理基本計画」が策定され、3R推進の施策が進められています。

この基本計画に基づき、川崎市ごみ減量推進市民会議は、3Rの推進に向けた市民・事業者・行政の協働の場として、また、具体的な実践の場として発足し、第1期（平成18～19年度）では、「生ごみの減量化」、「地域におけるごみ減量活動」、「レジ袋削減に向けた取り組み」をテーマに活動を行いました。

第2期（平成20～22年度）では、第1期の成果を踏まえ、4つのテーマの活動を行いました。第1分科会「生ごみダイエット」では、生ごみ減量化方法を研究し、川崎市に適した手法を検討しました。第2分科会「普及広報チラシの研究」では、適切な廃棄物の出し方・分け方を広報するポスターの作成等、地域の取り組みを調査しました。第3分科会「レジ袋削減に向けた取り組み」では、レジ袋削減に関する市民の意識調査を実施し、今後の望ましい方向性を検討しました。第4分科会「若者へ伝える3R」では、廃棄物の問題に関心が薄いといわれる若者の意識や良好なごみ集積所を調査することで、より3R推進に効果のある方法を検討してきました。活動の成果は、平成22年3月の活動報告会で発表しました。本報告書は、報告会参加者の皆様から頂いた貴重なご意見も踏まえ、市民会議の活動をとりまとめたものとなります。

循環型社会形成のためには、市民一人ひとりが自らの生活を見直し、環境に配慮したライフスタイルを実践していくことが特に重要と考え、このような視点から活動を行ってきました。これらの活動の成果が「川崎市の廃棄物行政」、「地域コミュニティにおける3R推進活動」、更には「市民・事業者・行政の協働の取り組み」をより促進させる一助になればと願っています。

末筆となりましたが、ご協力いただきました各方面の方々に改めて感謝申し上げます。

平成22年7月

川崎市ごみ減量推進市民会議

座長 渋谷 謙三

副座長 繁宮 仁

副座長 百武 ひろ子

2 川崎市ごみ減量市民会議（第2期）について

（1）川崎市ごみ減量推進市民会議とは

平成 17 年 4 月、川崎市は川崎市一般廃棄物処理基本計画「かわさきチャレンジ・3R」を策定し、市民・事業者・行政が加わり、協働で地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指すこととなりました。この計画において、市民の参加と協働を進める場として「川崎市ごみ減量推進市民会議（以下「市民会議」という。）」の設置を定めています。第1期は平成 18 年秋に委員を募集し、平成 19 年 1 月に「川崎市ごみ減量推進市民会議」が発足しました。現在の第2期活動は、平成 20 年 9 月に新たな委員により発足し、検討を行ってきました。

<市民会議の設置目的>（設置要綱より）

市民会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップに基づいたごみの減量活動を推進するため、三者による連携の取組みや、市民一人ひとりが地域や家庭で自主的・日常的にごみ減量に取り組むための仕組みづくりを検討します。

（2）市民会議のメンバー

第2期市民会議のメンバーは、廃棄物減量指導員（7名）、ごみ・リサイクル等に関する市民団体（3名）、事業者（3名）、学識経験者（2名）、公募市民（4名）、行政（1名）の計 20 名で構成しています。なお、委員の任期は平成 20 年 9 月～22 年 7 月です。

〔委員名簿〕（分科会別・50音順）

	氏名		所属等		氏名		所属等
第1分科会	●渋谷 謙三	学	環境自治システム研究所 代表	第3分科会	徳野 千鶴子	団	かわさき地球温暖化対策推進協議会 (グリーンコンシューマーグループ)
	恒川 光子	指	廃棄物減量指導員(高津区) (市民会議は第1回～第6回まで活動)		松井 よし子	団	川崎市消費者の会 代表
	村山 美香子	団	川崎・ごみを考える市民連絡会		山崎 英士 (代理:三沢一弘)	事	株式会社スリーエフ執行役員総務室長
	米山 作英	指	廃棄物減量指導員(宮前区)		山崎 初美	事	生活協同組合コープかながわ 理事
第2分科会	小倉 悦子	民	市民公募(多摩区)	第3分科会	多田 貴栄 (H20.4～21.3)	行	環境局生活環境部廃棄物政策担当主幹 同上 環境局生活環境部減量推進課 課長
	久保倉 清	指	廃棄物減量指導員(麻生区)		佐藤 好子 (H21.4～22.3)		
	西澤 和夫	事	法政通り商店街振興組合 理事長		木村 浩三 (H22.4～H22.7)		
	福村 勇	指	廃棄物減量指導員(幸区)				
	藤井 恒夫	指	廃棄物減量指導員(川崎区)	第4分科会	◎繁宮 仁	民	市民公募(幸区)
	松下 聡	民	市民公募(川崎区)		津村 嘉男	民	市民公募(宮前区)
					晴山 祐吉	指	廃棄物減量指導員(中原区)
					◎百武 ひろ子	学	(有)プロセスデザイン研究所 代表
					森 一美	指	廃棄物減量指導員(多摩区)

●-座長 ◎-副座長 学-学識経験者 指-廃棄物減量指導員 団-市民団体 民-公募市民 事-事業者 行-行政
事務局：環境局生活環境部廃棄物政策担当（環境局の組織改編に伴い、平成 22 年度から課名が「減量推進課」に変更）

〔参考：第1期市民会議報告書より〕

■川崎市ごみ減量推進市民会議の設置の経緯とその位置づけ

平成17年4月、川崎市は川崎市一般廃棄物処理基本計画「かわさきチャレンジ・3R」を策定し、市民・事業者・行政が加わり、協働で地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指すこととなりました。

この計画を推進するにあたって、市民の参加と協働を進める場として、「川崎市ごみ減量推進市民会議」（以下「市民会議」といいます。）の設置が掲げられています。

川崎市一般廃棄物処理基本計画（かわさきチャレンジ・3R）より

● 「川崎市ごみ減量推進市民会議」の設置

ごみ減量の取組を市民と協働して推進するため、市民、廃棄物減量指導員、事業者、専門家などから構成する「川崎市ごみ減量推進市民会議」を設置します。

この会議は、「ごみ減量学習プラン」や「資源集団回収の拡大」など、市民・事業者・行政のパートナーシップに基づく事業が適切に運営されるように意見の反映が行われる場として、さらに行動計画の点検・評価を行う場として定着するよう努めます。

■川崎市ごみ減量推進市民会議準備会としての「廃棄物減量指導員ネットワーク会議」

平成17年度に廃棄物減量指導員による「廃棄物減量指導員ネットワーク会議」※1を立ち上げ、市民会議に至る前段として、問題点や解決策などを討議するとともに、市民会議の設置について意見をとりまとめました。（「ムダを無くして、より豊かな生活をめざして」－廃棄物減量指導員ネットワーク会議報告書－平成18年3月）

※1：各区の減量指導員の代表24名で構成

川崎市ごみ減量推進市民会議のあり方についての意見（要点）

① 基本的な考え方

机上の議論にとどまらず、実践的な組織とする。

② 組織の構成

市民、事業者、学識者など、あらゆる主体が参画した組織とする。

③ 検討課題

環境問題は多岐にわたるが、市民会議のターゲットはごみ減量に絞る。

④ 現状の組織との関係

廃棄物減量指導員も参加できる仕組みとする。市民会議と連携し、廃棄物減量指導員連絡協議会の活性化策も検討すべき。

「ムダを無くして、より豊かな生活をめざして」－廃棄物減量指導員ネットワーク会議報告書－平成18年3月

この中では、市民会議の基本的な考え方として、机上の議論ではなく実践につなげていける組織とすること、全市的な会議だけではなく区単位や町内会・自治会単位で実践できるような仕組みを検討することが示されました。

また市民会議のメンバーには市民、事業者に加えて、ごみの収集・処理やリサイクル

の現場に従事する人、学識経験者などあらゆる主体が参画できるようにすることや、行政も参加して市民の声を行政に伝えるとともに行政から市民に課題提起する場とすることが提案されています。

川崎市には、地域のごみ減量活動を支える廃棄物減量指導員が任命され、活動していますが、市民会議には廃棄物減量指導員も参加するとともに、廃棄物減量指導員連絡協議会の活性化を図り、市民会議と連携してごみ減量に取り組んでいくことが提案されています。

川崎市ごみ減量推進市民会議の設置目的

- ① ごみ減量に向けた市民（活動団体を含む）・事業者・行政の情報交換の場
- ② 市民や地域が取組むごみ減量活動の具体策の検討及び実践の場
- ③ 市民・事業者・行政のパートナーシップに基づくごみ減量に関する事業が適切に運営されるように意見の反映が行われる場
- ④ 将来的には行動計画の点検・評価を行う場として定着させる場

(3) 市民会議の開催状況

市民会議は次のような内容で行いました。

回	日時	会場	主な内容
第1回	平成20年9月30日 9:30~11:30	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 第5研修室	・委嘱状交付 ・自己紹介 ・川崎市ごみ減量推進市民会議の趣旨 及び活動経過について ・座長・副座長選出
第2回	平成20年11月7日 9:30~11:30	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 第1・第2研修室	・川崎市のごみ処理・廃棄物行政の概 要について ・他都市の事例紹介
第3回	平成20年12月25日 9:30~11:30	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 第5研修室	・活動テーマについて
第4回	平成21年2月5日 9:30~11:30	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 第5研修室	・活動テーマについて
第5回	平成21年3月12日 9:30~11:30	川崎市高津市民館 第6研究室	・分科会の活動
第6回	平成21年4月23日 9:30~11:45	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら) 第3会議室	・会議の目的と進め方 ・分科会の活動
第7回	平成21年6月19日 9:30~11:30	川崎市中原区役所 5階502会議室	・分科会の活動
第8回	平成21年8月7日 9:30~12:00	川崎市中原区役所 5階502会議室	・分科会の活動
第9回	平成21年9月17日 14:00~16:30	川崎市中原区役所 5階502会議室	・分科会の活動
第10回	平成21年11月24日 14:00~16:00	川崎市中原区役所 5階502会議室	・分科会の活動 ・活動報告会について
第11回	平成21年12月24日 9:30~12:00	川崎市中原区役所 5階502会議室	・分科会の活動 ・活動報告会について
第12回	平成22年2月18日 14:00~16:00	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 第1・第2研修室	・分科会の活動 ・活動報告会について
活動 報告会	平成22年3月14日 13:30~16:00	川崎市中原区役所 5階 501・502 会議室	・分科会の活動紹介 ・関係団体等による展示紹介 ・ポスターセッション
第13回	平成22年3月26日 14:00~16:30	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら) 第3会議室	・活動報告会のふりかえり ・活動報告書について ・分科会の活動
第14回	平成22年6月1日 9:30~12:00	川崎市中原区役所 5階505会議室	・分科会の活動 ・活動報告書について
第15回	平成22年7月5日 14:00~16:00	川崎市生活文化会館 (てくのかわさき) 研修室	・分科会の活動 ・市民会議の今後について ・活動報告書について
第16回	平成22年7月26日 14:00~16:00	川崎市中原区役所 5階502会議室	・活動報告書について ・報告書の提出

(4) 分科会の活動

第2期市民会議の分科会では、第1期の活動成果も踏まえ、活動テーマを絞り込み、次の4つの分科会に分かれて活動を行ってきました。

分科会/テーマ	活動内容
第1分科会 「生ごみダイエット」	生ごみの削減に向けて、家庭でできる方法について話し合った。他都市の取組み事例を調査しながら、川崎市で実施しやすい方法を紹介していく。
第2分科会 「普及広報チラシの研究」	分別処理の現状・問題点などについて話し合った。町内会等で貼付されている普及広報チラシの良いものを調査し、紹介する。
第3分科会 「レジ袋削減に向けた取組み」	レジ袋の削減について話し合った。レジ袋削減協定について検討し、また、川崎市消費生活展（10/10 川崎区アゼリア）・オダキューOX栗平店（11/19）で市民・来店客に対しアンケート調査を実施した。また、市民団体、事業者、行政の三者がレジ袋削減に向けた意見交換会を開催（2/8）し、相互に情報を共有した。
第4分科会 「若者へ伝える3R」	各生活環境事業所への良好なごみ集積所に関するアンケート調査・大学生へのアンケート調査を行い、地域におけるごみ減量化・リサイクルの推進の取組を調査するとともに、ごみ問題に対して認識が薄いといわれる若い世代に伝わる方法を検討した。

<参考：平成18・19年度の取組み>

第1期では、次のような取組みを行ってきました。

（任期は平成18～19年）

分科会/テーマ	活動内容	成果
分科会1 生ごみ減量とリサイクル	市と協働して生ごみ減量ハンドブックを作成する	手軽に見て実行してもらえるような内容のハンドブック「チャレンジ生ごみダイエット」を作成
分科会2 地域におけるごみ減量活動	地域の先進的な活動のノウハウを集めて発表会を開催する	「ごみニティの底力・発表会」を平成19年11月11日に開催
分科会3 事業者との連携によるごみ減量活動	スーパー等と連携してレジ袋削減とともにマイバッグ運動を推進する	事業者へのアンケート調査、意見交換会等を経て平成19年10月2日、事業者（2社）、市民会議を含む市民団体（2団体）、川崎市の4者で「環境配慮型ライフスタイルの確立に向けたレジ袋削減に関する協定」を締結

3 分科会活動報告

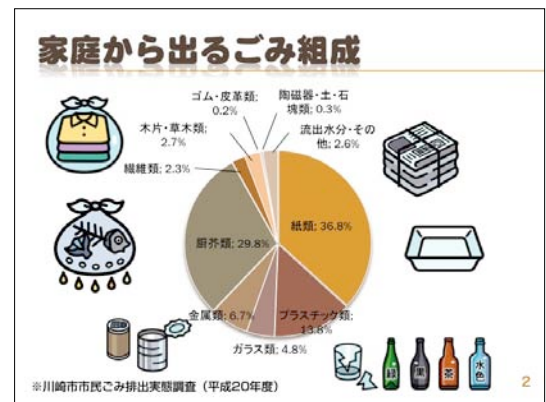
第1分科会～第4分科会の活動を紹介します。

(1) 第1分科会 「生ごみダイエット」

1) 活動のねらい

第1分科会では第1期で作成された生ごみを家庭で減量及び資源化する実践のための小冊子「チャレンジ生ごみダイエット」を踏まえて、この応用編ということですのでしてきました。生ごみを市の回収に出さない仕組みづくりをめざして他都市の事例を参考に、市民が簡単で取り組みやすく継続できる生ごみの削減・堆肥化の方法について話し合ってきました。

現在川崎市の人口は約 141 万人です。家庭から出る一般ごみの重量比での組成率は高い順にいうと、紙類が 36.8%、生ごみは 29.8% です。その次にプラスチックが 13.8% となっています。このうち紙類の中でもミックスペーパーは平成 23 年 3 月から全市で分別収集され、プラスチック製容器包装も南部 3 区から先行して分別収集される予定です。



残るのは家庭から出る生ごみですが、現在一般ごみの約 30% を占める生ごみは全て焼却されています。生ごみの 80～90% は水分のため、焼却には助燃剤である都市ガスもかなり必要となるおそれがあり、CO₂ も排出されます。市の収集に出さずに、できるだけ生ごみを堆肥化すれば、家庭系一般ごみの 30% 減量に大いに寄与することになります。

生ごみの堆肥化にはいろいろな方法がありますが、まずは食べ物は残さずにきれいに食べてしまうこと、食材はムダにしない、余計に買わないことが何よりですが、仕方なく出てしまった生ごみは、家族構成やライフスタイルに合わせて以下のいずれかの方法を選んで実践していただくことが初めの第一歩です。

- ①電動処理機 ②コンポスト化容器 ③密閉容器
- ④ダンボールコンポスト ⑤土の中に

毎日出る生ごみですから、簡単に堆肥化できて継続することが肝心ですので、無理せずできるところから取り組める方法を提案します。

将来的には、市民が生ごみを堆肥化して、農家はその堆肥を使って野菜を作り、できた野菜を私たちが食べるという小さな「循環のわ」を作りたいものです。

このような取り組みが地産地消につながり、ひいては日本の食料自給率を引き上げることにまいります。

2) 活動の内容

生ごみの減量に取り組んでいる先進事例を学ぶため、川崎市及び他都市の取り組みを視察しました。

①町田市事例

町田市では、集合住宅から出る生ごみを堆肥化するために大型電動処理機を市が設置しています。市内に6ヶ所あり、1ヶ所50世帯で1台使用しています。大型処理機は1台がちょうど車1台分に相当する値段(300万円)くらいかかります。さらに月に1万円程度の電気代がかかりますが、町田市の場合は市が負担しています。このようにランニングコストはかかりますが、好きなときにいつでも生ごみを持っていき、入れられるという便利さもあります。

住民同士の井戸端会議の場となり、地域のコミュニティーのつながりが持てるというメリットもあります。

町田市はなぜ、1基300万円もする大型生ごみ処理機を導入する実験を始めて、その機械の本格導入を計画したのでしょうか。その決定の背景には、その導入のメリットの理論的根拠があると判断されたからだと聞いています。町田市ではごみ処理手数料の有料化が実施されており、川崎市との違いはありますが、川崎市も同様に導入のメリットを本格的に検討すべきではないでしょうか。市民会議で視察・研究してきた成果を踏まえて、川崎市でも専門家による費用対効果等の検証を行うなどして、導入を検討してみるべき時期ではないでしょうか。

②「あさお生きごみ隊」の事例

川崎・ごみを考える市民連絡会のメンバーと麻生まちづくり市民の会の呼びかけで、一般市民を巻き込み麻生区内の30世帯ほどが参加しています。市民が密閉容器で生ごみを一次処理したものを、市の収集車が月2回収集し、堆肥場に運びます。その後市民が混ぜ込み、切り返しを行い、農家はその堆肥を使って野菜を育て、市民がその野菜を食べるという小さな循環の協働モデル事業です。市民の作業の負担が大きいのが欠点です。



③「吉岡ルート」の事例

川崎・ごみを考える市民連絡会のメンバーが主体となり、多摩区の16世帯と宮前区の4世帯をあわせ、市民が密閉容器で生ごみを一時処理したものを、市の収集車が月2回(各週)回収し、農家の堆肥場に運び、その後市民が混ぜ込み・切り返しを行い、農家ができた堆肥で野菜を栽培し、その出来た野菜を市民が食べるという小さな循環のしくみができています。市・市民・農家の三者による協働モデル事業です。

ただし切り返し・混ぜ込みなどの作業の負担が大きいのがデメリットです。



④葉山町の事例

葉山町は人口3万人の小さな町ですが、焼却場の老朽化により、神奈川県内でもごみ処理費用がワーストワンでした。2008年に初当選した現町長が、ごみの脱焼却・脱埋立をめざし、『葉山町ゼロ 웨스트への挑戦』という構想案を発表し、20年間で限りなくゼロに近づけるという長期計画をマニフェストに掲げ、選挙により就任しました。これを機会に近隣の市とのごみの広域化計画を離脱することになりました。

そしてごみの減量を具体化するために、ごみの組成調査をした結果、可燃ごみの約6割を占める生ごみについては、町民に自家処理をしてもらう方向ですすすめています。以下は進めている方法です。

- * 「バクテリア de キエーロ」…庭に木枠を作り、その中に黒土を入れて、穴を掘って生ごみを入れるだけ、ランニングコストは全くかからない。
- * 「くるくる」…ボックス型の木の箱の中で、ハンドルをくるくる回せば

手を汚さずに使える生ごみ処理機。生ごみが多くなるとハンドルが重くなりまわしづらい、虫が発生するなどの問題があるようです。



⑤ダンボールコンポストの例

川崎市麻生区を中心に、『環境を考え行動する会』が広めている方法で、ダンボールの箱の中で、基材(ピートモスともみ殻くん炭入り)の中に生ごみを入れ、かき混ぜるだけです。ダンボールと中身の基材を購入するだけでランニングコストは低額で、簡単なので初心者向き。マンションでもベランダさえあればできる。家族構成にもよりますが、おおむね3～6ヶ月で完結します。ただし夏場は虫がわくことがあります。カバーなどの虫対策を行うことで、軽減できます。



3) 活動の成果

各地を視察した事例の特徴を比較して、良い点、悪い点それぞれを考慮し、第1分科会として、住宅形態にこだわらず、戸建でも集合住宅でもどちらでも取り組めるといふ点と、初心者でも簡単にでき、コストが低額ですむという点でオススメ度ナンバーワンのダンボールコンポスト方式をごみ減量推進市民会議のメンバーから希望者を募り、8名の方に実践して頂きました。

アンケートの結果、簡単・楽しかった方が7名で、実践中は一般ごみに出すごみの量が減り、現在3回の収集を半数の方が2回で、残りの半数の方は1回が適当と回答しています。

以上のことから、ダンボールコンポストは生ごみの減量に大いに役立つということが分かりました。一般市民の方が取り組んだ場合も、生ごみに対する意識改革が期待されます。そのことを裏付ける成果が、2月23日に行われた生ごみリサイクル講習会に参加されたモニターの方々のアンケートからうかがえます(11ページ参照)。

川崎市では初めてダンボールによる生ごみ削減・堆肥化の講習会で、講師に福岡のNPO法人循環生活研究所のたいらさんをお招きして行いました。

アンケートの結果から、1名を除き「楽しかった」がほぼ全員となりました。これは実際にやってみないとわからないことですが、ダンボールというコンパクトなもので完結するので、管理しやすく生ごみの分解を日々確認できることが支持される理由かと思われます。

ごみを出す量も軽くなったという方が8割でごみの削減に大いに貢献しています。

そしてダンボールコンポストを実践することで、何よりも市民のごみに対する意識の変化が見られたことは評価できることです。

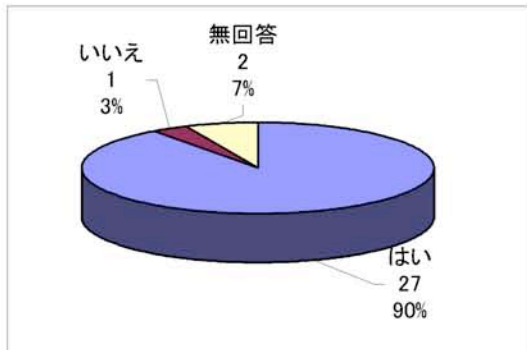
今まで体験した多くの方々の実感として、できた堆肥を使って、花や野菜を育てることで、生ごみが汚い、くさいものから『生ごみは宝』という発想に変化していきます。

今後も市民に向けたダンボールコンポストの普及のための講習会の開催を継続して行うよう要望します。

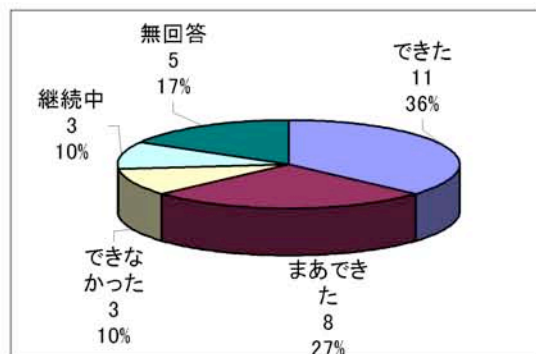
生ごみリサイクル講習会参加者による
ダンボールコンポストモニターのアンケート結果

送付件数 44件
回答件数 30件
回答率 68.2%

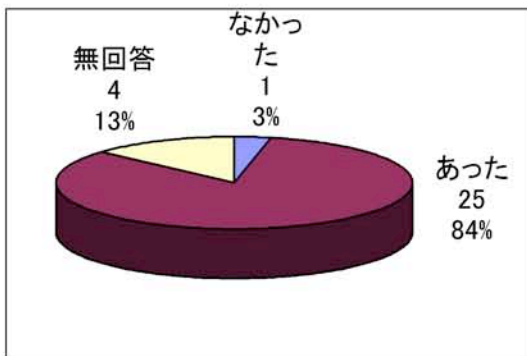
1. 楽しかったか？



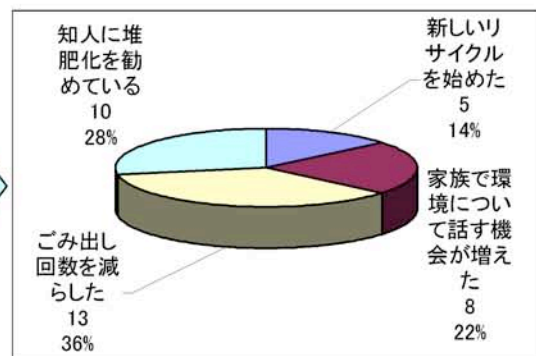
2. 堆肥は出来たか？



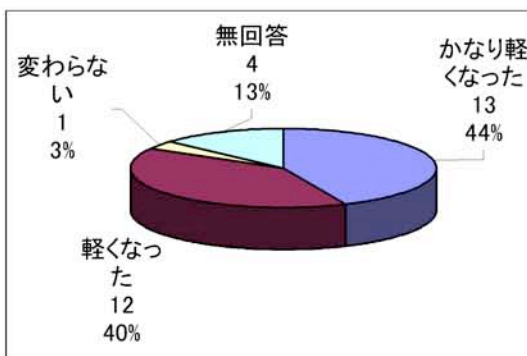
3. (1)意識の変化は？



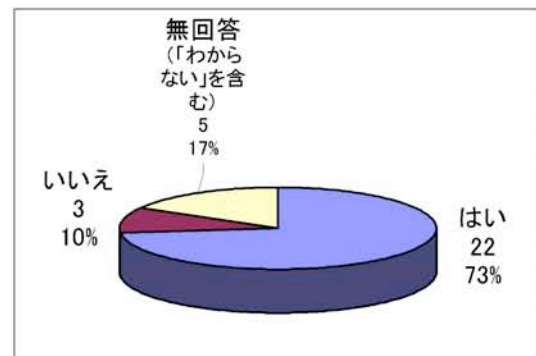
3. (2)意識がどのように変化したか？



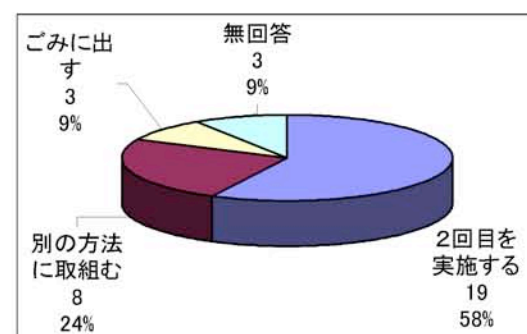
4. ごみ出し量は？



5. 他の人にダンボールコンポストを勧めたいか？



6. 今後について(複数回答可)



また、3月14日開催のごみ減量推進市民会議の活動報告会の中で行ったポスターセッションでは、集合住宅と戸建の場合で、それぞれでどういう方法が生ごみの減量するのに良いかということに参加者にシールで投票してもらいました。

その結果は、集合住宅の場合は、町田市事例のような大型電動処理機が8点で、同点でダンボールコンポストが人気でした。戸建の場合はダンボールコンポストが13点と他の方法と比べ高得点でした。

ただし、ダンボールコンポストは、生ごみというウェットごみの特質からして、ダンボールという紙素材の耐久性の問題など、懸念される点もあります。

このようなことから、様々な生ごみ堆肥化の手法を組み合わせることが重要なことと考えます。

第一分科会としては、生ごみの減量と堆肥化に向けて、市民が取り組みやすく、継続性が図れるという点で、以下の二点を市に提案します。

- 集合住宅については、大型電動処理機の設置を進めるために、導入した場合のメリット・デメリットを検討し、ランニングコストを試算して、ごみ処理に関わる費用と比較して有効となれば、実際に市内の団地やマンションで実験的に取り組む方向で進める。
- 戸建・集合住宅のいずれの場合にも対応できるダンボールコンポストの実践を勧める。
ダンボールコンポストは手軽に安価で、すぐに始められるという点で初心者には有効です。初めて生ごみの堆肥化のしくみを理解するにはとてもよい手段です。
まずは生ごみの堆肥化を体感し、体得した後は、それぞれのライフスタイルに合わせて、色々な堆肥化の手法の中から市民に選択してもらおうという方向で進める。

以上のことから、市民への普及活動・回収方法・できた堆肥の使いみちなど具体的に市民を巻き込んで取り組むことが、生ごみの資源化と地域での小さな「循環のわ」を実現させるための大きな一歩となるのではないのでしょうか。

(2) 第2分科会 「普及広報チラシの研究」

1) 活動のねらい

第2分科会では、ごみの分け方、出し方、普及広告、チラシの研究を行いました。廃棄物を減らし処理するにはどうしたら良いか、3Rを推進するにはどのような効果的な対策や方法があるのかを、それぞれの立場で考え検討してきました。

2) 活動の内容

普通ごみ、ペーパー、資源ごみを減らすために話し合いをしてきました。同じ川崎市市内でも、住居地により微妙にごみの出し方が違うことが分かりました。また、戸建ての多い地域、マンションなどの集合住宅が多い地域などにより考え方の違いがあることが分かりました。問題の解決のためには、家庭から生活ごみを出す時に皆さんに考えてもらうことが大切です。

①意識改革の必要性

家庭から出す生活ごみを集積場に持っていく時に、分け方、出し方をきちんと考えているか、注意喚起することが最も大切です。住民に理解してもらうための意識改革から始める必要があります。

しかし、全員が守ってくれる訳ではありません。ルールを知らない、知っていても無視して出すという人もいます。いかに意識改革してもらい、やる気を出してもらうかが問題です。

②分別の具体的な方法を集積所に分かりやすく示す

ごみの種類は千差万別です。資源ごみ、可燃ごみなどがありますが、大きくは「燃える」、「燃えない」、「水分」の3つに分けられます。川崎市が作ったごみの出し方の小冊子はとても分かりやすくできています。しかし市民が理解してくれるかという別問題になります。高齢者、外国人などには分かりにくいという意見もあります。

そこで、それぞれのごみの集積場所に合わせた内容で、分かりやすいインパクトあるチラシを貼って呼びかけることができるよう、参考として実際に具体のチラシやポスターを収集し、情報提供していくことを検討しました。

③行政のリーダーシップで市民の理解を深める

横浜市ではルール違反を繰り返す事業者には指導・勧告・罰金があるそうです。行政の並々ならぬ努力があれば、市民はごみの分別に関心を持ち、協力し、やる気を出していくでしょう。行政がリーダーシップをとることが大切だと思います。もちろん市民のバックアップが絶対条件です。分別収集によるごみの減量は、環境エコのために良いことだと皆理解しています。分別品目が多くなればごみを減らすことができます。「分ければ資源、捨てればごみ」とは言い古された言葉ですが、分別品目を多くしてごみに付加価値をつけることが大切です。

横浜市は徹底して目標に取り組んでいます。市民会議の活動の中では葉山町と町田市のごみ処理を

視察しました。家庭内でごみを分別する行為は主婦の手間と努力が必要です。全国の中で自治体が生ごみ堆肥化に取り組んでいるところがありますが、あまり成功していないのが実状のようです。

しかし町田市では、自治会が市の補助を受けて取組んだり、葉山町では公的な援助を受けて生ごみを減らすことに、家族が一体となって取り組んでいます。結局は机上の議論ではなく、行動を起こすことが大切です。また、事業を進めるには時間とお金が必要です。10年後、20年後の目標に向かって、今目標を立て協力することが必要です。

大量生産・大量消費で発展してきた国ですが、きれい好きな国民性から、衣食住全てに過剰包装も多いと感じます。また、生産者の顔が見える商品、安全安心と言って売っても、売る側の経費の削減が優先になっています。売る側と買う側の接点が、ごみ減量の糸口のような気がします。これからは消費者が自分で考え行動する時代になっています。

川崎市は人口 141 万人、65 万世帯です。かわさきチャレンジ3R はまだ道半ばです。平成 25 年、あと 3 年で目標に達するためには、行政の強力なリーダーシップが必要だと思います。横ばい状態を打破するためにも市民、行政、事業者がスクラムを組んで取り組む必要があります。私たちも危機感を持って、住民のみなさんの理解を得られるように努力していきたいと思っています。

3) 活動の成果

各地で実際に使われているポスターを調査し、撮影し持ち帰ってきました。市の生活環境事業所でも、問題のあるところには掲示してもらっています。

次ページ以降に実際各地で使用されているチラシ、ポスターの例を示します。

※分別の方法などについては、チラシ、ポスターの作成時期によっては、現在の収集方法と異なる表記がありますので、参考にする際はお気をつけください。

■町会からの優しい注意の例

町会の皆様へ
 新年度4月2日から **ごみの収集日**が
 変更になります。

資源物
普通ごみ(生ゴミ、プラスチック、電球、化粧品ビン、ガラス、
 陶器のかけら、耐熱ガラス、蛍光灯など)
(火)・(木)・(土) 週3回です。
資源物(缶、ビン、ペットボトル、乾電池) **ピンはかごに**
 毎週 (月) 曜日となります。

変わらない
小物金属 (30cm未満、傘、鍋、ハンガーなど) 別冊
第2、第4(月) 曜日の2回です。
粗大ごみ (小物金属と同じ 第2、第4(月)曜日です)
◎ (有料) 申し込み先 「粗大ごみ受付センター」 ☎ / 930-5300

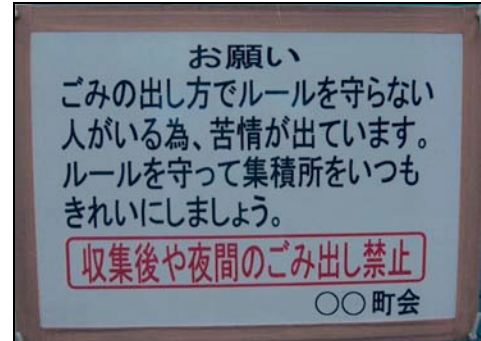
4月からは(水)・(金)・(日)が全く収集のない日になら
ます。皆様のご協力をお願いします。

◎町内会衛生部 ◎町会廃棄物減量指導員

お願い(御注意)

気温が上昇し、生ごみの腐敗臭が発生しています。
魚・肉・乳製品・煮汁等を捨
てる時は御注意下さい。
 普通ゴミとは別にビニール袋にいれ、**煮汁等をこぼさ**
ないで下さい。
 特に上記蛋白質の腐敗臭は強いです。
脱臭剤の効果を上げるた
めにも御協力下さい。

川崎市廃棄物減量指導員



■生活環境事業所からの注意の例

おねがい

(空き缶・ペットボトルの出し方)
 ペットボトルのキャップとラベルは、必ず資源物に出してください。

(空きびんの出し方)
 空きびんは朝の朝に出してください。

川崎生活環境事業所

不法投棄は犯罪です

違反した場合、最高で5年以下の懲役又は1000万円以下の罰金
 「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない」(廃棄物処理法1条5項)

川崎生活環境事業所 ☎ 641-2043
 川崎環境センター ☎ 222-0110

■掲示のあるごみ集積所の例



お願い

空き缶・ペットボトルの出し方
 ペットボトルのキャップとラベルは、必ず資源物に出してください。

川崎生活環境事業所 ☎ 641-2043

お願い

缶詰めは、中を洗って出してください。
 空き缶は中を洗って、ペットボトルはキャップとラベルを別冊に書いて、つぶして出して下さい。

火曜日資源物の日の朝に出してください。

川崎生活環境事業所 ☎ 641-2043



■不法投棄した方へ呼びかけ例

集積所はいつもきれいにしておきましょう。

出された方に一度お会いしてお話を
したいと思えますのでこの次に出す
ときは、名前と電話番号を書いて出
してください。

〇〇町内会衛生部

■出された物へ貼付けているものの例

ここは、ごみ捨て場ではありません。

出した方は持ち帰って下さい。

- 決められた曜日の朝8時まで透明の袋で
- 生ゴミ (月)・(水)・(木)・(金) 曜日 4日間
- ペットボトル 缶 ビン (火) 曜日
- 小物金属 第2・4(月) 曜日 長さ30cm以下
- 粗大ゴミ 電話で申込み (有料) TEL 930-5300

〇〇町内会衛生部

ここはゴミ集積所になっていますが
ゴミの捨て場ではありません。
決められた曜日の当日
朝八時までに、ゴミを出して下さい。
生ゴミは 月・水・木・金 曜日です。
資源ゴミは 火曜日 です。
小物金属は 第2・第4(月) 曜日 です。
粗大ゴミ 電話で申込み (有料) 930-5300

■不法廃棄物への注意喚起の例

お願い（排出者の方へ）
 エアコン・テレビ・冷蔵庫（冷凍庫）
 洗濯機の4品目は、購入店または家電
 リサイクル協定店に必要な金額を支払い
 処分をしてください。
 平成 20 年 4 月 日
 川崎生活環境事業所
 電話541-2043

■カラスや猫に対応するための出し方を示した例

※ ご近所には迷惑をかけないよう努力する。
 決まりは皆で守って育てる。

生ごみは
 直接入れると
 カラスや
 ネコが
 見つけて散らかす
 広告紙などで包む

真ん中に入れる
 中が見えない色袋に入れる
 決められた場所に

2009.04.01

■絵が描かれていて分かりやすい例

普通ごみ

**段ボールは、
ごみと一緒に
捨てないで!**

みかん箱 1箱=約1Kg

□□マンション内の
古紙ストックヤードに出された
「新聞・雑誌・段ボール」は、
川崎市から資源集団回収奨励金が
1Kgにつき3円を交付されます。

段ボールは、貴重な紙資源です。

■細かく手順を入れた例

ペットボトルの出し方

① キャップを取る
 キャップは、普通ごみに出す

② ラベルを剥がす

③ つぶす

リサイクル情報
 『品質調査結果』のランクについて
 (財団法人資源物リサイクル協会)
 A・・・自動車用高圧ワイパー(普通用)
 B・・・自動車用高圧ワイパー(普通用)
 C・・・自動車用高圧ワイパー(普通用)
 D・・・自動車用高圧ワイパー(普通用)
 ※平成18年度における、自動車用ペ
 ットの回収率の向上を図るため、資源物
 は、キャップ(のび)と本体(のび)の別
 回収による回収率の向上を図ることに
 なっています。

分別ルールを守り
 「きれいな資源」を
 つくりましょう!

問合せ先
 川崎生活環境事業所
 電話 541-2043

空きびん分別収集にご協力を...

収集するもの
 一升びん、ビールびん、洋酒びん、清涼飲料水のびん、食品類のびん、
 いりずも等ではないびんです。ただし、一升びん、ビールびんについては
 できる限り、資源物として分別回収に出してください。




出してはいけないもの
 ガラス製、プラスチック製、PET製、PETG製、PETE製、PETI製、PETM製、PETN製、PETX製、PETY製、PETZ製、PETAA製、PETAB製、PETAC製、PETAD製、PETAE製、PETAF製、PETAG製、PETAH製、PETAI製、PETAJ製、PETAK製、PETAL製、PETAM製、PETAN製、PETAO製、PETAP製、PETAQ製、PETAR製、PETAS製、PETAT製、PETAU製、PETAV製、PETAW製、PETAX製、PETAY製、PETAZ製、PETBA製、PETBB製、PETBC製、PETBD製、PETBE製、PETBF製、PETBG製、PETBH製、PETBI製、PETBJ製、PETBK製、PETBL製、PETBM製、PETBN製、PETBO製、PETBP製、PETBQ製、PETBR製、PETBS製、PETBT製、PETBU製、PETBV製、PETBW製、PETBX製、PETBY製、PETBZ製、PETCA製、PETCB製、PETCC製、PETCD製、PETCE製、PETCF製、PETCG製、PETCH製、PETCI製、PETCJ製、PETCK製、PETCL製、PETCM製、PETCN製、PETCO製、PETCP製、PETCQ製、PETCR製、PETCS製、PETCT製、PETCU製、PETCV製、PETCW製、PETCX製、PETCY製、PETCZ製、PETDA製、PETDB製、PETDC製、PETDD製、PETDE製、PETDF製、PETDG製、PETDH製、PETDI製、PETDJ製、PETDK製、PETDL製、PETDM製、PETDN製、PETDO製、PETDP製、PETDQ製、PETDR製、PETDS製、PETDT製、PETDU製、PETDV製、PETDW製、PETDX製、PETDY製、PETDZ製、PETEA製、PETEB製、PETEC製、PETED製、PETEE製、PETEF製、PETEG製、PETEH製、PETEI製、PETEJ製、PETEK製、PETEL製、PETEM製、PETEN製、PETEO製、PETEP製、PETEQ製、PETER製、PETES製、PETET製、PETEU製、PETEV製、PETEW製、PETEX製、PETEY製、PETEZ製、PETFA製、PETFB製、PETFC製、PETFD製、PETFE製、PETFF製、PETFG製、PETFH製、PETFI製、PETFJ製、PETFK製、PETFL製、PETFM製、PETFN製、PETFO製、PETFP製、PETFQ製、PETFR製、PETFS製、PETFT製、PETFU製、PETFV製、PETFW製、PETFX製、PETFY製、PETFZ製、PETGA製、PETGB製、PETGC製、PETGD製、PETGE製、PETGF製、PETGG製、PETGH製、PETGI製、PETGJ製、PETGK製、PETGL製、PETGM製、PETGN製、PETGO製、PETGP製、PETGQ製、PETGR製、PETGS製、PETGT製、PETGU製、PETGV製、PETGW製、PETGX製、PETGY製、PETGZ製、PETHA製、PETHB製、PETHC製、PETHD製、PETHE製、PETHF製、PETHG製、PETHH製、PETHI製、PETHJ製、PETHK製、PETHL製、PETHM製、PETHN製、PETHO製、PETHP製、PETHQ製、PETHR製、PETHS製、PETHT製、PETHU製、PETHV製、PETHW製、PETHX製、PETHY製、PETHZ製、PETIA製、PETIB製、PETIC製、PETID製、PETIE製、PETIF製、PETIG製、PETIH製、PETIJ製、PETIK製、PETIL製、PETIM製、PETIN製、PETIO製、PETIP製、PETIQ製、PETIR製、PETIS製、PETIT製、PETIU製、PETIV製、PETIW製、PETIX製、PETIY製、PETIZ製、PETJA製、PETJB製、PETJC製、PETJD製、PETJE製、PETJF製、PETJG製、PETJH製、PETJI製、PETJJ製、PETJK製、PETJL製、PETJM製、PETJN製、PETJO製、PETJP製、PETJQ製、PETJR製、PETJS製、PETJT製、PETJU製、PETJV製、PETJW製、PETJX製、PETJY製、PETJZ製、PETKA製、PETKB製、PETKC製、PETKD製、PETKE製、PETKF製、PETKG製、PETKH製、PETKI製、PETKJ製、PETKK製、PETKL製、PETKM製、PETKN製、PETKO製、PETKP製、PETKQ製、PETKR製、PETKS製、PETKT製、PETKU製、PETKV製、PETKW製、PETKX製、PETKY製、PETKZ製、PETLA製、PETLB製、PETLC製、PETLD製、PETLE製、PETLF製、PETLG製、PETLH製、PETLI製、PETLJ製、PETLK製、PETLL製、PETLM製、PETLN製、PETLO製、PETLP製、PETLQ製、PETLR製、PETLS製、PETLT製、PETLU製、PETLV製、PETLW製、PETLX製、PETLY製、PETLZ製、PETMA製、PETMB製、PETMC製、PETMD製、PETME製、PETMF製、PETMG製、PETMH製、PETMI製、PETMJ製、PETMK製、PETML製、PETMM製、PETMN製、PETMO製、PETMP製、PETMQ製、PETMR製、PETMS製、PETMT製、PETMU製、PETMV製、PETMW製、PETMX製、PETMY製、PETMZ製、PETNA製、PETNB製、PETNC製、PETND製、PETNE製、PETNF製、PETNG製、PETNH製、PETNI製、PETNJ製、PETNK製、PETNL製、PETNM製、PETNN製、PETNO製、PETNP製、PETNQ製、PETNR製、PETNS製、PETNT製、PETNU製、PETNV製、PETNW製、PETNX製、PETNY製、PETNZ製、PETOA製、PETOB製、PETOC製、PETOD製、PETOE製、PETOF製、PETOG製、PETOH製、PETOI製、PETOJ製、PETOK製、PETOL製、PETOM製、PETON製、PETOO製、PETOP製、PETOQ製、PETOR製、PETOS製、PETOT製、PETOU製、PETOV製、PETOW製、PETOX製、PETOY製、PETOZ製、PETPA製、PETPB製、PETPC製、PETPD製、PETPE製、PETPF製、PETPG製、PETPH製、PETPI製、PETPJ製、PETPK製、PETPL製、PETPM製、PETPN製、PETPO製、PETPP製、PETPQ製、PETPR製、PETPS製、PETPT製、PETPU製、PETPV製、PETPW製、PETPX製、PETPY製、PETPZ製、PETQA製、PETQB製、PETQC製、PETQD製、PETQE製、PETQF製、PETQG製、PETQH製、PETQI製、PETQJ製、PETQK製、PETQL製、PETQM製、PETQN製、PETQO製、PETQP製、PETQQ製、PETQR製、PETQS製、PETQT製、PETQU製、PETQV製、PETQW製、PETQX製、PETQY製、PETQZ製、PETRA製、PETRB製、PETRC製、PETRD製、PETRE製、PETRF製、PETRG製、PETRH製、PETRI製、PETRJ製、PETRK製、PETRL製、PETRM製、PETRN製、PETRO製、PETRP製、PETRQ製、PETRR製、PETRS製、PETRT製、PETRU製、PETRV製、PETRW製、PETRX製、PETRY製、PETRZ製、PETSA製、PETSB製、PETSC製、PETSD製、PETSE製、PETSF製、PETSG製、PETSH製、PETSI製、PETSJ製、PETSK製、PETSL製、PETSM製、PETSN製、PETSO製、PETSP製、PETSQ製、PETSR製、PETSS製、PETST製、PETSU製、PETSV製、PETSW製、PETSX製、PETSY製、PETSZ製、PETTA製、PETTB製、PETTC製、PETTD製、PETTE製、PETTF製、PETTG製、PETTH製、PETTI製、PETTJ製、PETTK製、PETTL製、PETTM製、PETTN製、PETTO製、PETTP製、PETTQ製、PETTR製、PETTS製、PETTT製、PETTU製、PETTV製、PETTW製、PETTX製、PETTY製、PETTZ製、PETUA製、PETUB製、PETUC製、PETUD製、PETUE製、PETUF製、PETUG製、PETUH製、PETUI製、PETUJ製、PETUK製、PETUL製、PETUM製、PETUN製、PETUO製、PETUP製、PETUQ製、PETUR製、PETUS製、PETUT製、PETUU製、PETUV製、PETUW製、PETUX製、PETUY製、PETUZ製、PETVA製、PETVB製、PETVC製、PETVD製、PETVE製、PETVF製、PETVG製、PETVH製、PETVI製、PETVJ製、PETVK製、PETVL製、PETVM製、PETVN製、PETVO製、PETVP製、PETVQ製、PETVR製、PETVS製、PETVT製、PETVU製、PETVV製、PETVW製、PETVX製、PETVY製、PETVZ製、PETWA製、PETWB製、PETWC製、PETWD製、PETWE製、PETWF製、PETWG製、PETWH製、PETWI製、PETWJ製、PETWK製、PETWL製、PETWM製、PETWN製、PETWO製、PETWP製、PETWQ製、PETWR製、PETWS製、PETWT製、PETWU製、PETWV製、PETWW製、PETWX製、PETWY製、PETWZ製、PETXA製、PETXB製、PETXC製、PETXD製、PETXE製、PETXF製、PETXG製、PETXH製、PETXI製、PETXJ製、PETXK製、PETXL製、PETXM製、PETXN製、PETXO製、PETXP製、PETXQ製、PETXR製、PETXS製、PETXT製、PETXU製、PETXV製、PETXW製、PETXX製、PETXY製、PETXZ製、PETYA製、PETYB製、PETYC製、PETYD製、PETYE製、PETYF製、PETYG製、PETYH製、PETYI製、PETYJ製、PETYK製、PETYL製、PETYM製、PETYN製、PETYO製、PETYP製、PETYQ製、PETYR製、PETYS製、PETYT製、PETYU製、PETYV製、PETYW製、PETYX製、PETYY製、PETYZ製、PETZA製、PETZB製、PETZC製、PETZD製、PETZE製、PETZF製、PETZG製、PETZH製、PETZI製、PETZJ製、PETZK製、PETZL製、PETZM製、PETZN製、PETZO製、PETZP製、PETZQ製、PETZR製、PETZS製、PETZT製、PETZU製、PETZV製、PETZW製、PETZX製、PETZY製、PETZZ製

出してはいけないもの
 ※専断に包み、「キアア」と書いて、普通ごみに出してください。
 ※油のついたびん、汚れたびんは出さないでください。


出し方マナー
 ① キャップと
 本体を別々に
 出す
 ② 空びんを
 入れて出す
 ③ 川崎生活環境事業所 電話 541-2043


■ 1週間のごみカレンダーの例

一週間のゴミ回収カレンダー

日	休み	普通ゴミ 週3回 火 木 土 資源の日 週1回 月 小物金属類 月2回 第2 第4回目の月曜日
月		資源の日 毎週 (ペットボトル カンは一緒に透明袋) 毎週 第2 第4回目 (ピンは指定青かごに 乾電池も透明袋) 小物金属類 無料 粗大ごみ 有料 044-930-5300
火	普通ゴミ	  
水	休み	
木	普通ゴミ	<p style="text-align: center;">* 決まりは皆で守って育てる。 * 午前8時までに出すよう心がける。 * ご近所には迷惑をかけないように努力する。 * 住んで良かったと誇れる町にする。</p> <p style="text-align: center;">〇〇町会衛生部 廃棄物減量指導員</p>
金	休み	
土	普通ゴミ	

ピンが混入していると
写真のように置いていく





一人でも守らない人がいる限り
町はきれいにならない

土曜日・日曜日・祭日・には出さない

決められた曜日の朝

⑧時までに透明・半透明な袋で

- 生ゴミ 4日間 (月・水・木・金) 曜日
- ペットボトル カン ビン (火) 曜日
- 小物金属 長さ30センチ未満 (第2・第4) (月) 曜日
- 粗大ゴミ 電話で申込み 有料です
930-5300

〇〇町会衛生部

■ 年末年始のごみカレンダーの例

年末・年始のごみ収集日カレンダー

2009年12月23日 以降の収集日 日程は
年末の最終日 次のとおりです。

普通ごみ (木) 12月31日

資源物 第4回目の月曜日 12月28日
小物金属 空き缶・ペットボトル、空きびん、使用済み乾電池

水	木	金	土	日	月	火	水	木
23	24	25	26	27	28	29	30	31
休み	収集	休み	収集	休み	資源物 収集	収集	休み	収集

年末、年始は特に皆でゴミの出し方を守って、気持ちのよいお正月を過ごしましょう。決められた収集日の朝8時までに出して下さい。

2010年1月5日(火) からの収集日 日程は
年始の開始日 資源物は
第2回目の月曜日 1月11日 次のとおりです。

金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	8	9
休み	休み	休み	休み	収集	休み	収集	休み	収集

**粗大ごみ、普通ごみ等の不法投棄を
「しない」「させない」「ゆるさない」**

最近不法投棄が増え、地域の環境を破壊しています。不法投棄をしている違反者を発見した時は、車のナンバー等を管轄の生活環境事業所か警察に連絡して下さい。

〇〇町会衛生部 廃棄物減量指導員 21-12

(小物金属の収集日) (資源物の収集日)

第2回・4回目の 月曜日

毎週 火曜日

30cm未満の小物金属と 新金ハンガー

- ◎ 空き缶・ペットボトル
- ◎ 空きびん (キャップを脱ぎ、ゆき捨て)
- ◎ 使用済み乾電池 (透明の袋に入れて出す 販売店の回収)

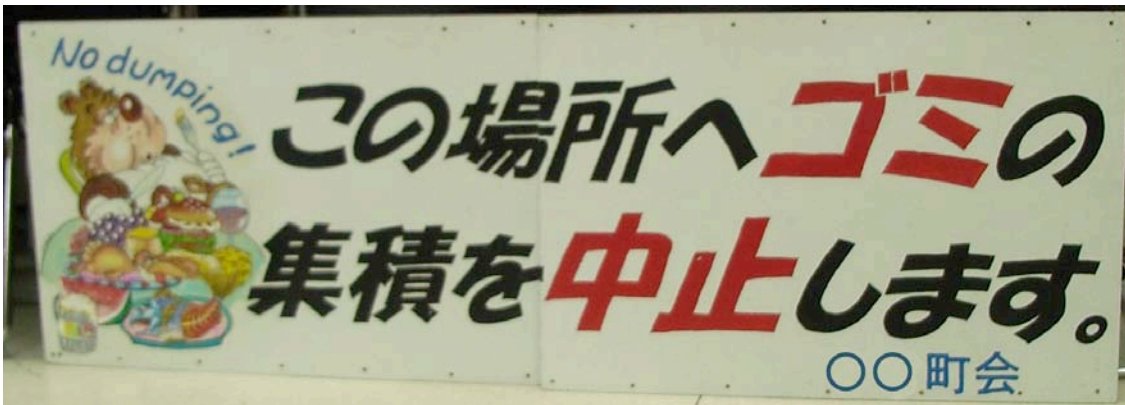
びん以外の物はいれない

《当日の朝、8時までに出す》

■実物が写真で載っていてわかりやすい例



■集積所の廃止にあたり、誰でも分かるように、大きくインパクトのある表示をした例



（3）第3分科会 「レジ袋削減に向けた取り組み」

1) 活動のねらい

第3分科会は、第1期に引き続きレジ袋の削減をテーマに活動を進めました。レジ袋削減のために何が有効か、進まないのはなぜかを考え、第1期で行った事業者向けのアンケートに対して、今回は消費者の考え方を調査するためのアンケートをしようと、市内の南部と北部で2回アンケートを実施しました。一つは川崎南部のアゼリア地下街でアンケートをしました。またその結果を踏まえて、事業者と意見交換を行い、レジ袋削減のために必要な協議の場について検討しました。

2) 活動の内容

2009年10月10日 川崎市南部（消費生活展@アゼリア）での消費者向けアンケート



2009年11月19日 川崎市北部（オダキューOX 栗平店）での消費者向けアンケート



2010年2月8日 事業者とのレジ袋に関する意見交換会



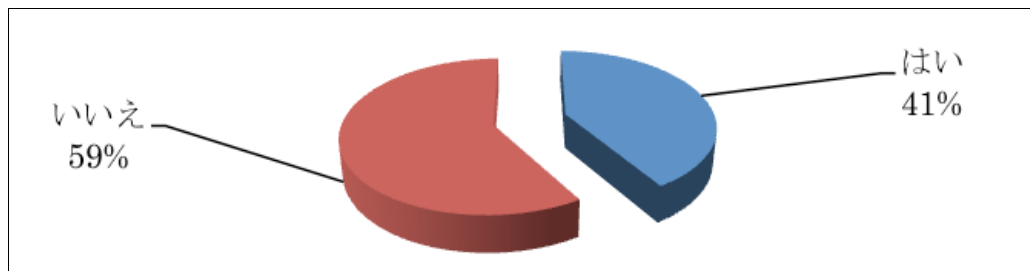
川崎市南部及び北部での消費者向けアンケート

目的： レジ袋削減のためには何が有効か
レジ袋削減が進まないのはなぜか

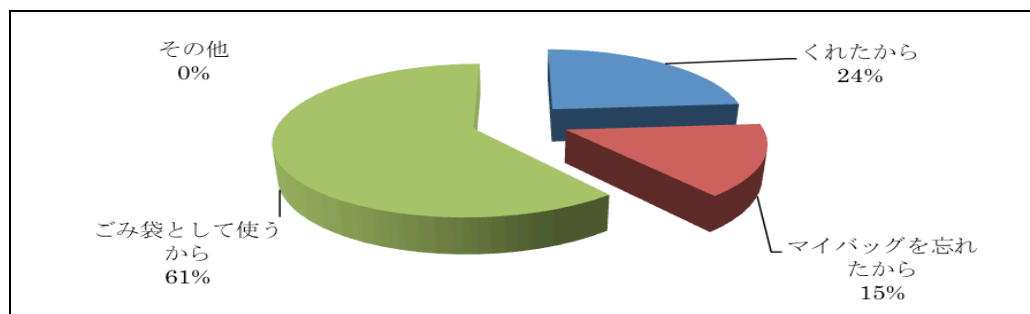
① アンケート 1：川崎市消費生活展@アゼリアでのアンケート

2009年10月10日 シール方式 約400人

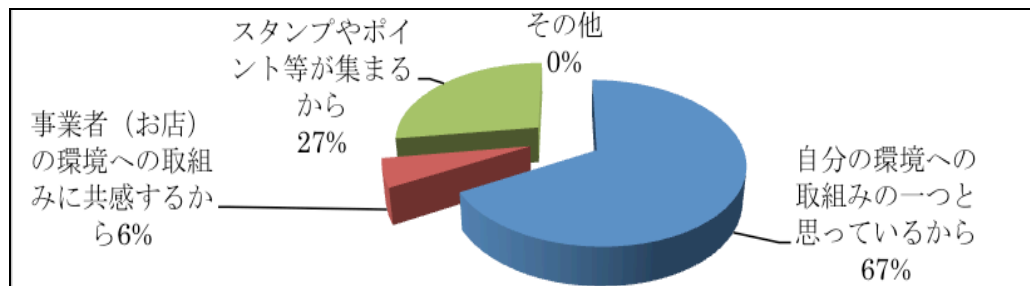
買い物のときにレジ袋をもらいますか。



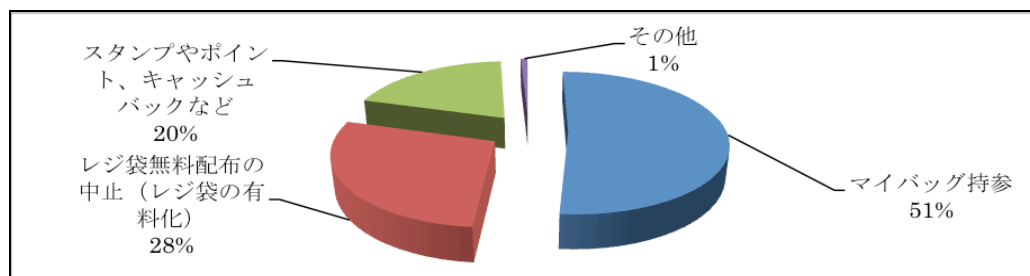
レジ袋をもらおうと答えた人へ：レジ袋をもらう理由は



レジ袋をもらわないと答えた人へ：レジ袋をもらわない理由は



レジ袋削減の取組みには、一番何が有効だと思いますか？



結果

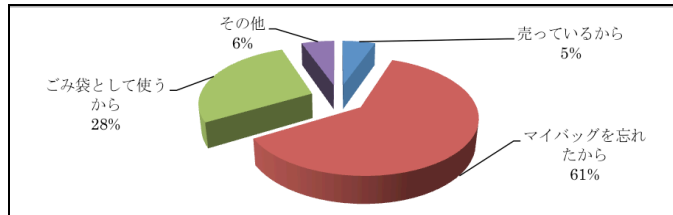
- ・レジ袋を貰わない人は6割（アンケート回答者は意識が高い）
- ・レジ袋を貰う人の6割はごみ袋として使う
- ・レジ袋を貰わないのは自分の環境に対する取組み

②川崎市北部での消費者向けアンケート（小田急OX栗平店）

2009年11月19日 シール方式 134人

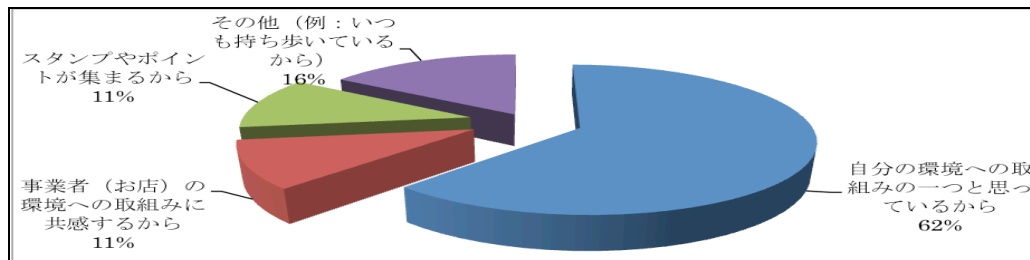
買い物の時にレジ袋を買いましたか？

レジ袋を買った人たち（18人）へ レジ袋を買った理由は



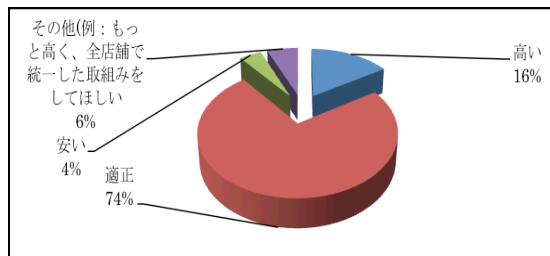
[小田急 OX 栗平店は 2008 年 10 月 1 日からレジ袋を有料化し、川崎市・かわさき地球温暖化対策推進協議会・ごみ減量推進市民会議とレジ袋削減協定を結んでいます。]

レジ袋を買わなかった人たち（116人）へ レジ袋を買わなかった理由は？

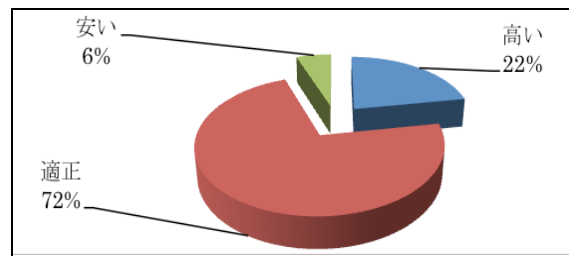


レジ袋販売価格 5 円は適正だと思いますか。

レジ袋を買った人たち

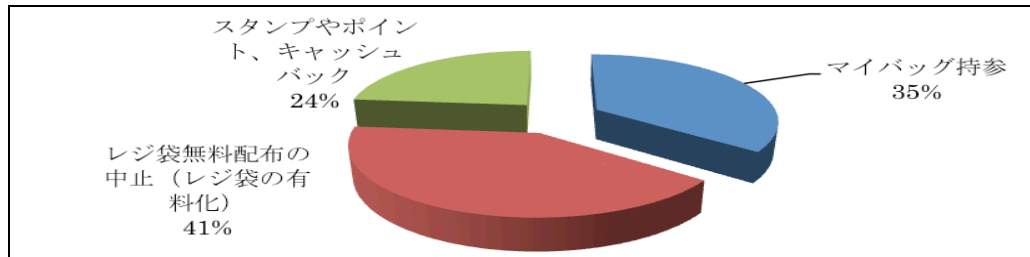


レジ袋を買わなかった人たち

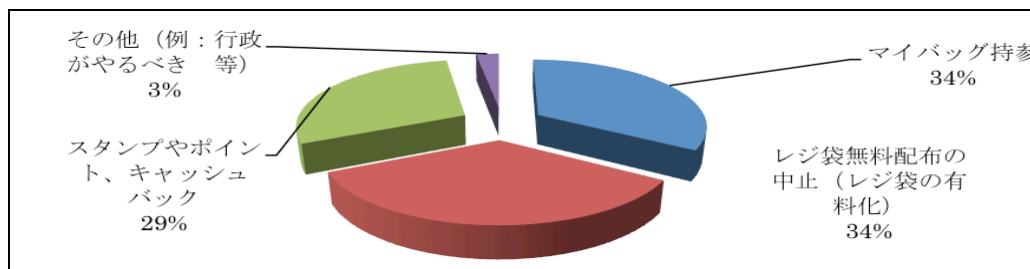


レジ袋削減の取組みには何が一番有効だと思いますか。

レジ袋を買った人たち



レジ袋を買わなかった人たち



- ・レジ袋を買わなかった人たちは 87%
- ・レジ袋 5 円は適正
- ・レジ袋削減に有効なのは、マイバッグの持参 レジ袋の有料化 多様な取り組みを進めること

③レジ袋削減に関する事業者との意見交換

2月8日 中原市役所第5会議室

《市民》徳野、松井、三沢、山崎（川崎市ごみ減量推進市民会議第3分科会委員）

《事業者》（株）セブン&アイHLDGS. CSR統括委員会事務局 小澤氏

（株）丸井グループCSR推進部 環境・CSR担当 課長 大森氏

生活協同組合連合会ユーコープ事業連合 広報・CSR推進室 CSR推進課 担当 唐戸氏

《行政》環境局地球環境推進室・生活環境部廃棄物政策担当

事業者からの意見

- ・事業者のいろいろな取り組みが進んでいる
- ・県や市の条例があれば取り組みが容易に
- ・「ごみ出しのルール」も考える必要あり
- ・事業者・行政・市民の三者が話し合える場を設定してほしい
- ・多様な事業者（ドラッグストア、ホームセンターなど）も参加
- ・業界の横のつながりを広げてほしい
- ・有料化に限定せずレジ袋削減を

廃棄物政策担当

- ・レジ袋削減は誰でも取り組める行動のシンボリック存在
- ・有料化に限定せず
- ・レジ袋削減に取り組む市民団体や区役所と連携

環境局地球環境推進室

- ・レジ袋削減はCO2削減にも有効
- ・買い物から温暖化を考えるきっかけに

市民の意見

- ・レジ袋の有用性を低くし、使用価値を下げる必要あり
- ・レジ袋削減には、事業者・行政・市民の3者が話し合う場が重要

レジ袋削減について、事業者・行政・市民の3者の話し合う場があれば、という市民と事業者の意見が一致した。

3) 活動の成果

私たちは、レジ袋削減に関する三者協議会がとても必要だと思います。事業者の協力を得るためには、行政の後押しが必要です。三者協議会で扱う内容は柔軟にし、市民の消費者行動を見直すきっかけとして活かすことを検討しています。

三者協議会のイメージとしては、構成員は20人程度で、様々な事業者、行政からの出席が考えられます。市民はPTA、消費者団体が考えられます。検討内容は、有料

化にこだわらずいろいろな立場で削減を考えられると良いと思います。目標数値が設定されたり、参加団体間の連携があったり。ごみの出し方も検討内容にしたいです。また三者協議会で決められたことにどのように効力を持たせるかも大切です。レジ袋削減のためには三者協議会が重要であると考えます。

(4) 第4分科会「若者へ伝える3R」

1) 活動のねらい

ごみ集積所でルールを守らない人は、1ルームマンションに住んでいる大学生ではないのか？ こんな意見が市民会議の中で出てきました。本当だろうか？ この疑問を解決するために1ルームマンションに住んでいる大学生に話を聞いてみようということから始まりました。

川崎市の進める3Rを若者にきちんと伝えなければならない。分科会のテーマとして、学生など若者に伝える3Rを取りあげ1年近く活動をしてきました。3Rのおさらいしてみましょう。「リデュース」は、ごみを減らそうということ、「リユース」は、再利用しよう、捨てないようにしよう、「リサイクル」はごみの再資源化、分別ですね。これを若者に伝えていくのが分科会のテーマです。

実際の活動内容は、川崎市内の5か所の生活環境事業所への良好なごみ集積所に関するアンケート調査と大学生へのごみ意識に関するアンケート調査を行い、地域におけるごみ減量化・リサイクルの推進の取り組みを調査するとともに、ごみ問題に対して認識が薄いといわれる若い世代に3Rがきちんと伝わる方法を検討しました。

① どのように活動していくか！

本当に大学生がごみ集積所のルールを守らないのか、情報収集する方法を議論しました。各地域におられるごみ減量指導員に話を聞いてみよう、集積所でごみを捨てる現場を見つけて話を聞こう、1ルームを管理している管理人に聞いてはどうか、など意見はいろいろ出ましたが、分科会の体力で実現可能な方法としては、アンケート用紙を作成し、川崎市内の大学生に調査をしたらどうかという意見にまとまり、アンケートの調査票を作成して調査を実施しました。

また、ごみ集積所がきれいだ、減量をしているエリアだ、という話題が何度も会議で語られましたが、各委員とも個人で観察・調査できるごみ集積所をイメージしての話になっているので、きれいなごみ集積所はこんなところ！ というイメージを共有しようということで、まずきれいで減量意識の高いごみ集積所はどんなところか調査しようというところからスタートすることにしました。

② 調査項目の作成！

きれいなごみ集積所をどのように調べるか。川崎市内数百か所の集積所を隈なく調査して知っている人はいるのだろうか？ どのように調べたらいいか？ この調査方法にもいろいろ議論がありました。ごみ減量指導員に推薦してもらい、委員がカメラを持って自分の近くできれいなところを写真に撮ってくるなど様々な意見ですが、なにより毎日ごみの収集をしている現場の方の意見が聞ければ一番いいのではないかと、ということに分科会の話がまとまってきました。しかし収集現場の方である、生活環境事業所の職員さんにお話を聞くのにも、仕事の状況、お話が聞ける時間・場所の確保など問題点が多く実現が難しいということで、アンケート調査票を作り各事業所にお願

いすることにしました。

川崎市内5か所の生活環境事業所の皆様にご協力していただいてアンケートを実施しました。アンケートの回収もスムーズに進んだのは生活環境事業所の皆様のご協力があったからです。ご協力を非常に感謝しています。

③ 大学生アンケートの実施！

本題の大学生にアンケートをどのように実施するのか、1ルームマンションに住んでいる大学生を見つけるのは簡単ではないようです。町内会、自治会などをお願いしてアンケート対象者を探してもらい、地元の不動産屋さんを探してもらい、大学のゼミの先生から対象者を紹介してもらい、大学で学生に話を聞いて対象者を探しだすなど、調査実施方法の意見は幾つも出ましたが実現に結び付けるのは多大な努力が必要なものばかりでした。

そこで大学をお願いをし、学生サークルの部長から部員にアンケート調査を実施するという方法に決まりました。また川崎市の学生だけでは地域差があるかもしれないという疑問も出てきたので、委員の関係する都内の大学でも実施しました。

2) 活動の内容

減量意識の高いきれいなごみ集積所とは、どんなところだろうか？ 2009年10月に生活環境事業所の職員さんにアンケートをお願いしました。ごみ収集車1台あたり1件ということでお願いしたところ、川崎市内5事業所のすべての事業所からアンケートを回収していただきました。アンケート回収総数は130件になりました。アンケートの集計後、減量意識の高いきれいな集積所と記載された場所うち、多摩区、麻生区の数か所を見学に行き、地域の方に簡単なお話を聞きました。

若者のごみに関する意識を調査するため、2009年11月にアンケート用紙を作成して、12月に川崎市の北部にある専修大学と明治大学の学生課の方をお願いして学生さんのアンケート調査を実施しました。また学生の意識に地域差があるのかを見るために、早稲田大学理工学部（新宿区）の学生さんにもアンケートをお願いしました。3つの大学の協力で合計186件のアンケートが回収できました。

2つの調査結果を踏まえて、分科会でアンケート結果をこの先どう生かしていくかということを検討しました。その結果、新旧住民がコミュニケーションを持つ場が必要だ、新住民に減量マニュアルを作り伝えていくことも必要だ、これらの成功事例があれば知りたいなど。アンケートを実施し初期の疑問点は解明されましたが、新たな疑問が生まれるという結果になりました。

①生活環境事業所職員に対する「ごみ減量意識の高い集積所」アンケート調査

生活環境事業所の職員の方にアンケートをお願いし、情報を集めました。

減量意識の高いきれいなごみ集積所はどんなところだと思いますか？幾つか下の写真をご覧ください

さい。多摩区の南生田の集積所はただの塀です、集積所だと分かりません。宮前区の野川の集積所は、分別はいつですと書いてある掲示があるだけです。麻生区の片平も同じです。写真にはありませんが、生活環境事業所の職員の方からの情報で見学したところは殆どがこのようなごみ集積所でした。ごみ箱があると、箱の中に捨ててしまいます。何も無いことがきれいに繋がるのかも知ません。分科会の委員でのきれいな減量意識の高い集積所のイメージの共有ができました。

生活環境事業所の職員さんのアンケートから把握できたことは、

- ① 収集場所の形状は平積み型 スペースは余裕をもたす
- ② ルールの書いたポスターや掲示板があること
- ③ 危険なごみは表示や区別をしている
- ④ ごみ袋はちらからないように袋を閉じる
- ⑤ 事業ごみを出させない 分別収集日を守る
- ⑥ 昔からきれいなところはきれい きれいなところは近所もきれい
- ⑦ きれいなところは戸建地区が多い（下記 注）
- ⑧ 近所に学校があるところ 高齢者が多いところ
- ⑨ カラス対策が徹底されている
- ⑩ 町内会が推進して減量指導をしている 減量指導員が活躍している

注：調査対象はマンションなどの管理者がいるごみ集積所は除いています。

町内会が推進して減量指導をしているところはきれいでした。これは一番大きなポイントです。マンションの管理人がいるところは別にして、きれいにしているということは町内会など地域の人の努力の結果であることが分かりました。



②大学生のごみに対する意識調査

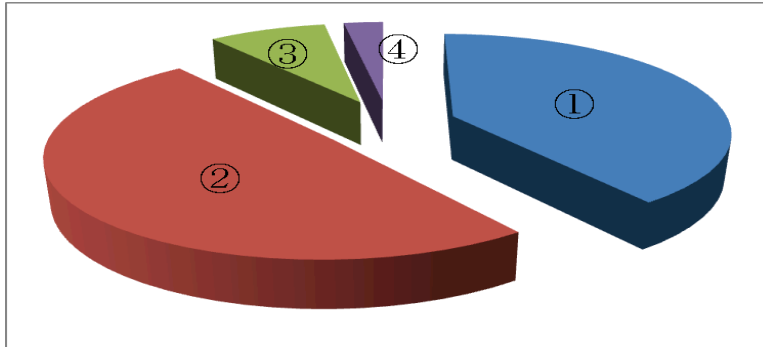
学生がルールを守らないのではないかと調べることをしようと、大学生にアンケートをしました。多摩区の専修大学と明治大学、その他早稲田大学にお願いしました。186件の回答を得ました。地域、学校にごみ問題の意識の差があるかという点では差がないようです。ごみ問題の「3R」の認知度をたずねましたが、学校別に認知度の差は見られませんでした。

大学生アンケートで把握できたことは、

- ① 地域ごみの出し方 学生は殆どの方が知っている
- ② 出し方を知らない学生は 分別せずまとめて出している
- ③ ごみの出し方は 家族から教わる 集積所の掲示や市役所のパンフレットも有効
- ④ ごみ出しのルールは 殆どの学生が守っている

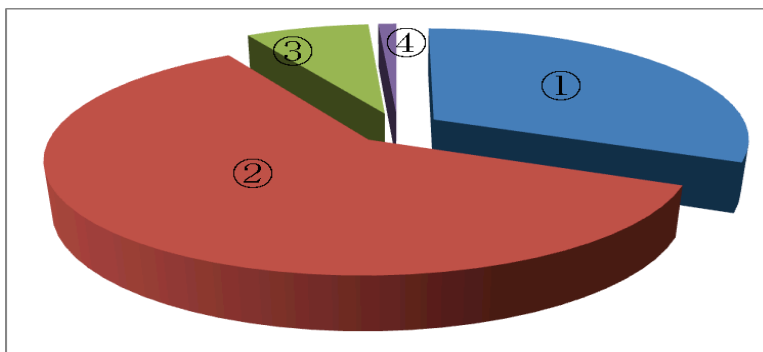
- ⑤ 守らない学生は 面倒だから ルールが分からないからなど
- ⑥ ルールの説明は パンフレットごみ集積所の掲示物が有効（今利用できるもの）
- ⑦ ごみの減量意識は 低い
- ⑧ 3R 殆どの学生が知っている

ごみ出しルールを知っていますか？



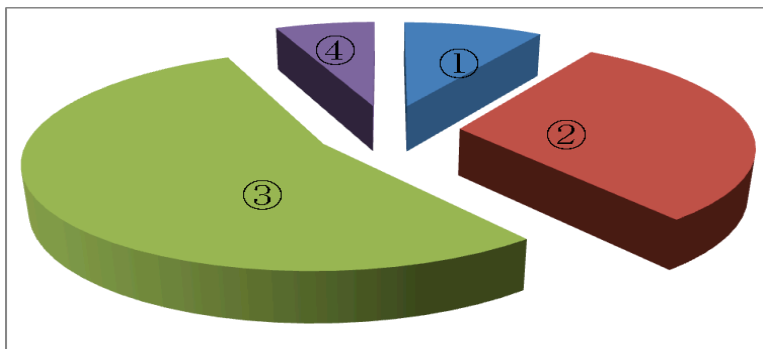
①知っている	39.8%
②なんとなく知っている	49.5%
③あまり知らない	8.1%
④まったく知らない	2.7%

ごみ出しルールを守っていますか？



①いつも守っている	31.2%
②だいたい守っている	60.2%
③あまり守っていない	7.5%
④まったく守っていない	1.1%

ごみの減量の意識をしていますか？



①かなり意識している	9.1%
②意識している	30.1%
③あまり意識していない	54.3%
④全く意識していない	6.5%

アンケートの結果から、地域のごみの出し方は殆どの学生が知っていることが分かりました。ごみの分別を教わるのは家族からです。守らない学生は面倒だからなどでした。

アンケート結果で一番問題だったのは、ごみの減量意識が非常に低いということです。ルールは8割以上知っています。でも減量意識のある学生は半分もいませんでした。

どうして減量を意識しないのか？ アンケート終了後に学生に話を聞きました。子どもの時にごみ処理施設の見学をしたけれど今は意識が高くない、だんだん忘れるなどの意見があり、もっとごみ問題について教えてほしいとのことでした。

3) 活動の成果

ごみ集積所でルールを守らない人は、1ルームマンションに住んでいる大学生ではないのか？ という当初の疑問には、大学生はごみ出しルールを知っていた。リサイクル意識もあるということでした。

大学生の問題は減量意識が欠けているという点でした。また地域ごとに微妙に異なるごみ集積所のルールや、紙ごみの処理方法、レジ袋の扱い方、粗大ごみの処理方法、地域の収集日などどこで聞いていか分からない、という意見も聞かれました。若者にきちんと伝えなければならないと思います。

川崎市の取り組んでいるごみの問題、3Rの取り組み方も学生に教える必要があります。特に学生になぜ必要なかを明確にして伝えなければ理解してくれません。パンフレットを渡すだけでは読んでくれません。特に若者の一人暮らしには一人暮らし用のパンフレットが必要かもしれないということを感じました。

またパンフレットや、情報を学校に提供して、大学生に出前講義をしたらよいというアイデアもありました。今後はこうした取り組みを実践できるように市政に反映していきたいと考えています。

①パンフレットの内容

現在も川崎市でごみの出し方、減量 3R のパンフレットを幾つも制作しています。学生・若者、特に転入者用のパンフレットとは？ 何を知らせればよいのでしょうか。アンケート結果からは、学生はリデュースやリユースをやらなければいけないことは理解しています。居住地域によって処理方法の違いがあることも知っています。その違いを理解させることが重要です。**第一に、川崎市の特徴、他の都市との違いを明確にすることが必要**だと感じます。

たとえば、紙ごみは行政回収していない（ただし、平成23年3月からミックスペーパーを全市で収集開始）、プラスチック製容器包装も平成23年3月から南部3区で分別収集を開始する、ごみ出しの指定袋はない、ペットボトル、ビンは分別資源ごみに出すなどです。

第二にそのパンフレットの内容は、若者の生活行動に合わせた内容が必要です。学生（若者）がどのようなごみを出すのかを想定した内容のパンフレットになっている必要があります。

そこで学生（若者）用のパンフレットを作成するには、**学生や若者を交えて、何をゴミにしているのか、どのようにゴミを出しているのか、現在の分別についての意見収集と解決策を検討し、パンフレットを作成**していくという手順が必要だと感じます。若者の目でごみの現状を知り、どのようにゴミを処理していけばいいのかを一緒に考えていくという意識が、減量に繋がるのではないかと考えます。

②パンフレットの提供先

現在、川崎市の広報、ごみの減量情報などの資料の配布は、市役所に行けばいつでも手に入ります。また、家庭には町内会経由とか新聞折り込みの広報紙とかで届けられています。しかし、家庭での保管状況を考えると、いざ、ごみ処理をしようという時に活用できるようになっているかという、少々疑問です。今回のテーマのような学生・若者、特に転入者に情報が知らされているかと

いうと、一般家庭以上に疑問が残ります。

では、どのような方法が情報提供に最適でしょうか。転居転入者の殆どが不動産屋さんを仲介して新住民になっています。転入時に不動産屋さんに地域のごみ処理の問題を説明していただき、学生・若者用のパンフレットを渡していただくという方法が有効であると考えています。

③ 地域住民とのコミュニケーション 出前講座

現在、小学校などで出前講座を行っていますが、地域の減量指導員の方が、各地域の大学での新人生ガイダンス時に大学での出前講座を実施するというのが有効な方法であると考えています。

講義内容は、川崎市の推進している 3R とは、資源物の出し方、自宅近くのごみ集積所の使い方、疑問に答えてもらえる減量指導員が地域にいることなども含めて、学生とコミュニケーションを深めていく協議会的なものを学生と作っていく講座になればと考えます。

④ 学生・若者に特化した情報提供方法

学生・若者の携帯電話の所有率は、ほぼ 100%です。家族や友人とのコミュニケーションや、学校からの連絡、授業の情報を収集するにも参考書を使ったり、パソコンを使うことよりも携帯電話で情報を取ることが多く使われています。

学生・若者のごみ処理の問題にも、この携帯電話を使うことで多くの問題点を解決できるのではないのでしょうか。携帯電話の位置情報を利用すれば一番近いごみ集積所が分かります。携帯電話のカメラで処理したい物を撮って送れば、どのように処分したらいいかが分かるシステムも実現可能でしょう。粗大ごみの出し方の情報も、どこに出すか、いつ出すのか、料金はいくらか、有料シールを携帯電話料金で決済して、はがきでシールを自宅に送りそれを貼り付けて出すなども携帯電話を使うことで簡単に処理ができるようになります。粗大ごみの処理以外にも、リデュースの方法の説明、買い物はマイバックを持って行きましょう、料理の工夫、買いすぎに注意しましょうということ。リサイクルの方法、リサイクル交換サイト、リアルなリサイクル広場の活用などパソコンでの情報提供より有効に利用してもらえるはずです。

川崎市は市内に IT 系の企業などが多く、日本の中でも特化しています。これらの最先端の IT 企業と大学生の協力を得れば、日本でもっとも進んだ携帯電話を使う、学生用（新住民）ごみ減量システムを作成することが出来るのではないのでしょうか。ただし若者向けには情報を頻繁に更新し、参加意識を啓発する工夫が必要で、「あなたのリサイクルが、これだけ減量に繋がりました」、などが分かるような仕組みにする必要があると考えます。

(5) 活動報告会

1) 活動のねらい

ごみ減量推進市民会議の活動を広く伝える機会として、活動報告会を開催しました。また、報告会でお聞きした市民のみなさんの声をその後の分科会の参考にし、その後の活動成果取りまとめに活かすことを目的としました。



2) 活動の内容

報告会は次のような内容で行いました。

日時：平成22年3月14日（日）13：30～16：00

会場：中原区役所5階 501・502会議室

内容：○第2期川崎ごみ減量市民会議の概要説明

○全体で、各分科会から活動発表

○関係団体等による展示紹介

○分科会の展示ごとに意見交換・交流〔ポスターセッション〕

○全体ふりかえりと意見交換の発表

3) 活動の成果

第1分科会では、調査を行った様々な生ごみ減量の事例を特徴とともに紹介し、参加者からどんな手法が望ましいと思うか意見をいただきました。また段ボールコンポストモニターを募集し、取組みを依頼しました。

第2分科会ではごみ集積所の現状に対して、効果的な広報の方法として収集した事例や手作り看板を紹介し、地域での掲示の方法や場所の確保について意見をいただきました。

第3分科会では消費者アンケートの結果とともに、市民、行政、事業者の三者協議会を設立することについて行った意見交換会の結果を紹介しました。レジ袋を必要としない文化づくりや行政による制度の追い風の必要性、三者協議会の運営方法の検討の必要性について意見をいただきました。

第4分科会ではきれいな集積所の調査や3大学に行った学生アンケートの分析結果を紹介し、減量意識の低い人への啓発方法や不動産屋との連携、新旧住民のコミュニケーションのきっかけをどうつくるかについても出ていました。

また6団体のみなさんに活動の展示と発表をしていただき、ごみ減量に関する様々な積極的な取組みについてご紹介いただくことができました。

協力団体：川崎・ごみを考える市民連絡会、あさお生きごみ隊、環境を考え行動する会、

川崎地球温暖化対策推進協議会（グリーンコンシューマーグループ）、コープかながわ、川崎市消費者の会

■分科会の発表の様子



第1分科会の発表



第2分科会の発表



第3分科会の発表

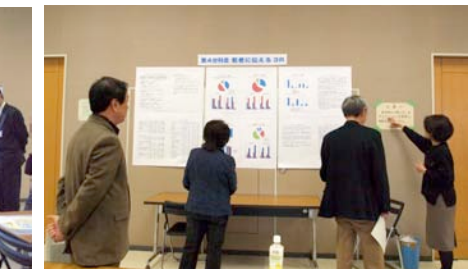


第4分科会の発表

■関係団体等による展示紹介の様子



■交流・意見交換の様子



4 今後の取り組みについて

(1) 川崎市政への提案

市民会議の活動の成果については、川崎市政へ反映されることで活かされます。川崎市の廃棄物行政において次のような取り組みが推進されるよう、提案します。

■第1分科会の成果・・・生ごみ等リサイクル推進事業

・ダンボールコンポスト等を用いた生ごみリサイクル活動の活性化と市民との連携

川崎市では、生ごみ等リサイクル推進事業を実施しています。市民が取り組みやすいダンボールコンポスト等を普及させる事業の展開と生ごみリサイクルリーダー制度等を活かした市民との連携強化を提案します。

・生ごみリサイクル手法の研究とモデル事業の実施

市立小学校4校で実施している大型生ごみ処理機による給食残渣堆肥化モデル事業で、その課題の把握や費用対効果等を検証し、集合住宅等での生ごみ堆肥化の可能性について検討することを提案します。

■第2・第4分科会の成果・・・普及広報事業

・市民への普及広報の強化

市のパンフレット「ごみの分け方・出し方」は、分りやすくできています。しかし、高齢者や外国人等にも理解できるような広報が望まれます。また、市がリーダーシップを発揮して、3R推進のために取り組んでいくことを期待します。

・廃棄物減量指導員連絡協議会の活性化

地域によっては、ごみの出し方等に違いがあったり、ルールを守ってくれない市民が中にはいたりします。そのような地域におけるきめの細かい広報やごみの出し方の課題は、地域の廃棄物減量指導員の活躍が期待されますが、それも市のリーダーシップの下、市民の協力が進みます。廃棄物減量指導員連絡協議会との連携を深め、地域での活動を活性化することが大切です。

また、ごみ集積所がきれいな地域には共通点があり、そのような良い点を減量指導員同士で意見交換し、横の関係でも連携が強化されるとよいと考えます。

・各世代等の特性に応じた普及広報手段の検討

世代ごとに情報を得るツール（道具）は異なります。3Rやごみ問題への関心の程度も違います。若い世代は携帯電話による情報収集が日常的です。各世代の特性に応じて広報の媒体を使い分け、より効果的な広報を推進していくことを提案します。

また、市外転入者などにタイミングよく情報を提供できるよう、不動産業の関係者と連携をとるなどの方法を提案します。

■第3分科会の成果・・・市民・事業者との連携の強化

・レジ袋削減に向けた市民・事業者・川崎市の三者で意見交換ができる場の検討

レジ袋の削減に向けた取り組みを推進するためには、市民・事業者・川崎市の三者協議会を設置し、具体的な方策を検討することが必要と考えます。しかし、各事業者の取組状況や他都市の動向等を踏まえる必要性もあることから、まずは第1歩として三者の意見交換ができる場を前向きに検討することを提案します。

■市民へ成果を広報し、活動の普及へつなげる

・廃棄物減量指導員連絡協議会との連携による活動の実践

市民会議の成果を実践につなげていくためには、地域のごみ減量活動を支える廃棄物減量指導員との連携が不可欠です。市民会議の報告書の内容を各区の廃棄物減量指導員連絡協議会の中でしっかりと伝え、日常の減量指導活動に活用していただけるようにすることを期待します。

・市民会議の成果の広報と普及

市民会議の活動を市民にPRし、一人ひとりのごみ減量意識の向上につなげていくことが重要です。ホームページでの成果の公開や簡易版報告書の配布が必要であると考えます。

市民会議の提案がその後どのように川崎市で検討され、政策に反映されたのかについて、第3期の市民会議冒頭で報告されることを期待します。

(2) 市民会議をより有意義なものとするための提案

市民会議の設置目的は、ごみ減量に向けた市民・事業者・行政の協働の場であること、具体的な実践の場であることですが、その活動を終えたあと、活動の成果をどのように活かしていくのが重要です。

今後、市民会議をより有意義にするために活動の成果を実際の行動につなげていくうえでの改善案を以下にまとめました。

■市民会議の役割をあらかじめ明確にする

市民、事業者、行政が同じテーブルに並び、それぞれの考えや意見を交換し合える場を設けることは有意義です。第2期の活動では、第3分科会での「レジ袋削減に向けた市民・事業者・行政の意見交換会」や、各生活環境事業所職員に依頼した第4分科会の「良好なごみ集積所のアンケート調査」などが一つの例といえるでしょう。

しかし、市民会議の活動を誰に向けて発信するのか、市行政にどのように反映させていくのかなど、その役割について具体的なヴィジョンの共有が十分にできていなかった

面があります。

そこで、今後は市民会議の役割をあらかじめ明確にしたうえで活動方針を議論することを提案します。

■施策に反映しやすいテーマを設定する

第2期では、市民にとって身近な課題であり、解決のための行動に結びつくようなテーマを設定しようという観点から、普段から委員が廃棄物に関して問題と感じていることを話し合っ4つのテーマに決定しました。

しかし、市民会議の委員は、それぞれ日常の活動や背景が違うため、どうしても関心のあるテーマが異なります。全体で20名の委員会では、あまり多くのテーマで活動することは人数が分散し、活動を進めにくいと感じました。

また、活動を進めていく中で、課題解決の実現可能性も重要な要素であると感じられました。

具体的な検討に当たっては、行政からの重点テーマや緊急度の高いテーマなどの情報提供があると取り組みやすく、また活動の成果が施策へ反映され、その実現性がより高まると考えます。

そこで、テーマ設定については次のような基準を設けることが望ましいと考えます。

《テーマ設定の基準》

- ①テーマが重要であること。
- ②テーマに緊急性があること。
- ③解決策が実現可能であること。
- ④テーマの数は3つ以内とすること。

■活動の成果を実現する方法論についても検討する

市民会議は実践の場でもありますが、委員数は20名であるため、市民会議の委員だけで活動を推進することは難しく、また、その活動が終了した後にも、その成果が活かせるような方法や体制が必要と考えます。

テーマ設定のあり方にも関連しますが、例えば、廃棄物指導員連絡協議会と連携して課題解決の仕組みづくりや、行政との意見交換を進める中で実現可能な解決方策を検討し、市政に反映させるなど、課題解決に向けた方法や体制をどのようにして作るかということを検討する必要があると考えます。

(3) 最後に

市民、事業者、行政が共通の問題意識を持ち、その解決のためにも働くこと、すなわち協働の考え方は、市民自治の時代にあってとても重要な理念です。

確かに、「協働」は抽象的な概念であることから、どのように行動していけばよいか、具体的な指針が見つけにくいことは否めませんが、それを問い続けながら、実践の中で答えを発見していくものではないかと思います。

第2期の市民会議の活動がその答えの一つであることを願うとともに、ここで得られた経験や反省点も含めて貴重な財産として次期の市民会議に活かされることを期待します。

